

# 全国屈指の処理能力で顧客に対応

◎関西クリアセンター(株)

「諦めない心こそが自身と企業の成長に繋がる」を経営理念に、50年以上にわたり産業廃棄物の収集運搬から中間処理などを手掛ける関西クリアセンター(株)(大阪府堺市西区築港新町3-27-17、伊山権一代表取締役、☎072-280-1138)。長年にわたり汚泥の処理を専門的に取り扱いつつ、燃え殻、ばいじんの処理で実績を重ねる。処理能力は、国内屈指の日量1520m<sup>3</sup>を誇り、近畿エリアを中心に幅広い地域から受け入れ、依頼者からの信頼は高い。

それまでの実績や経験を生かし、異なる分野だった建設廃棄物のリサイクルに参入。2020年7月に、建設混合廃棄物の処理に特化した「泉州プラント(大阪府泉大津市)」を立ち上げた。敷地面積は約4500坪、建屋は約800坪を誇る。

同プラントの最大の特長は、日量約1000m<sup>3</sup>の廃棄物を選別・破碎できる点にある。建設混合廃棄物をはじめ、埋設物の掘り起こしで出てくる異物が混入した廃棄物、ロール物、魚網などの処理困難物にも対応可能だ。

また、積み上げ高さ3m、最大保管が48.2m<sup>3</sup>の容量を持つ、積替え保管の許可も取得している。

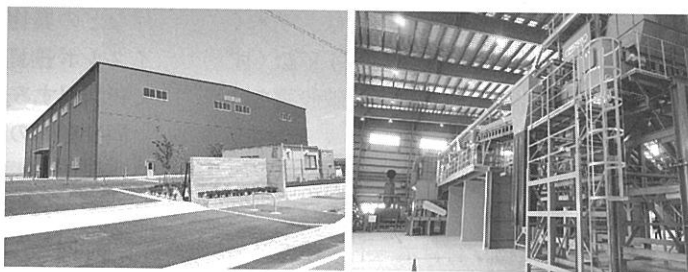
プラント内は、日量101.8m<sup>3</sup>の処理能力を持つ一軸破碎機と、同155.5m<sup>3</sup>の処理を可能とする二軸破碎機、ガラスくず、がれき類といった重量物を破碎するための破碎機(処理能力=同

988.8t)を完備する。

近年、リチウムイオン電池が破碎物の中に混入し、火災に発展するケースが全国的に問題となっている。それを受け、一軸・二軸破碎機の破碎物搬送コンベヤ・破碎物保管ヤードに消火設備を設置。異物破碎に伴う万一の火災に対しても万全を期している。さらに、新たな防火設備を増設する計画を立て、徹底した対策を講じている。

その他、2023年5月から、蛍光管の処分も開始した。受け入れを始めたばかりだが、家屋解体時に蛍光管が発生するケースがあることから、蛍光管の処分と一緒に、解体副産物の処理依頼も増えてきているとしている。

人手不足が慢性化している中、同社では、業務効率を高める一環として、LINE WORKSを用いて社内の情報を素早く共有するほか、AI配車やチャットGPTなどを活用。全国屈指の処理能力を誇る施設とともに、最先端のITやICT、AIなどの技術導入に関して積極的に取り組んでいる。これらの技術を生かしながら、産業廃棄物処理という枠を越え、製造・加工業としての観点での事業を展開していきたいとしている。



⑤全国屈指の処理能力を誇る「泉州プラント」 ⑥日量1000m<sup>3</sup>を受け入れ可能